

第 201 期定時株主総会 質疑応答要旨

2021 年 6 月 26 日（土）に開催しました当行第 201 期定時株主総会において頂戴しました主なご質問および当行の回答要旨を以下のとおり紹介いたします。

1	
質問	F プロジェクトについて、福邦銀行を 10 月には子会社化するなどの計画をしていると思うが、株主にはもう少し詳しい説明が必要ではないか。
回答	<p>10 月に当行が増資をしたところからひとつのグループとしてスタートする。今後の F プロジェクトの進捗状況については、いろいろな形にて、より一層の情報発信を行っていく。</p> <p>この機会に、F プロジェクトの考え方について説明させていただく。金融機関を取り巻く環境は厳しく、当行も福邦銀行もなかなか収益が上がらない環境にある。福井を地盤とする銀行がひとつのグループとなることで、福井県という地域にとって、一番効率的な形で店舗網を再構築していく。ATM も同じである。本部機能についても、人事や企画、営業部門はそれぞれの銀行に残すが、管理部門はひとつにまとめようと考えている。捻出できた人員については、営業や、地域観光商社や人材派遣会社などの新しい事業分野に投入していくことで、グループ全体として地域に貢献し、より効率的なグループ運営をしていきたい。既に発表の通り、投資抑制効果を含めて 5 年で約 70 億円のシナジー効果を上げていく。</p>

2	
質問	SDGs と環境問題についての取組みはどうか。
回答	<p>当行では 2018 年 12 月に SDGs の趣旨に賛同し、行員一人一人に意識を持ってもらうべく、行員自身が自分に取り組むべき目標を定め、一人一人のレベルのところから SDGs を広げていこうと取り組んでいる。金融機関としての環境問題への取組みとして、植林活動などにとどまらず、例えば既に取り組んでいる SDGs 私募債等のサステナブルファイナンスを通じて、環境活動を支援する対応をとっていきたい。</p>

3	
質問	当期純利益の水準について代表者としてどう評価しているか。
回答	<p>金融機関を取り巻く環境は、金融緩和政策の長期化により低金利がずっと続いており、収益環境は非常に厳しいものがある。中期経営計画において、中小企業向け融資残高の増強に取り組み、その成果を出すことはできているが、当期純利益 20 億円については決して満足できる水準ではなく、20 億円は最低限</p>

<p>の水準と認識している。従来からの取組みを力強く進めるとともに、短期経営計画の大きな柱であるFプロジェクトによるコスト削減や地域に貢献する新たな事業への進出など、グループとして収益が上げられるよう今期は土台の底上げを図り、翌期以降にさらに安定的に収益を上げて地域に貢献できる体制作りを目指したいと思う。</p>

以上